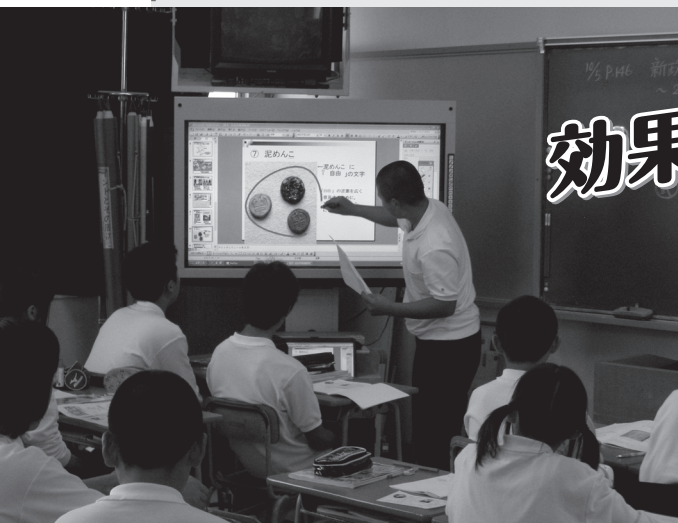




電子黒板を使って自分の考えを説明する

効果的な資料提示で 話し合い活動を充実

ICT 活用で思考力・表現力を育成

広島県三原市立幸崎中学校（屋敷光校長）では、学習集団の育成を通じて、思考力・表現力を高める授業づくりに取り組んでいる。ICTを活用した効果的な資料提示や、復習時間の短縮などによって話し合い活動を充実させ、思考力・表現力の育成を図る同校の取組みを紹介する。

◆電子黒板で、素早く、わかりやすく◆

「江華島事件のあと、日本と朝鮮が結んだ不平等条約をなんといいですか」

山藤真貴子教諭が電子黒板に表示された設問を読み上げると、生徒たちは一斉に手を挙げた。

「日朝鮮交条規です」

「正解！」

画面上の空欄に正解が示され、すぐに次の問題が表示される。前時の学習内容の要点を確認する問題は全部で6問。次々に示される穴埋め問題に生徒たちはテンポよく答え、復習を終えるまでにかかった時間はわずか3分程度だった。三原市立幸崎中学校（屋敷光校長）では、『思考力・表現力』を高める授業の創造～学習集団の育成を通じて』と題した研究に取り組んでいる。この日は研究主任の山藤教諭が社会科の単元「自由民権運動と国会開設」の授業を行った。

復習後、山藤教諭は、西郷隆盛と板垣退助に関する資料を電子黒板に表示。明治政府を去った二人が、西南戦争と自由民権運動という正反対の二つの運動を主導し、なぜ一方が敗北し、もう一方は国民的な支持を得たのか、その違いはどこにあったのかを子どもたちに問いかけた。生徒たちは電子黒板で山藤教諭が次々に示す、「田原坂激戦の絵」「オペケベ一節」「自由のメンコ」などの西南戦争や自由民権運動についての資料をもとに小グループに分かれて、

ディスカッション。資料のうち「自由」と書かれたメンコに着目した男子生徒は、「庶民の遊びであるメンコにまで自由という文字があるのは、その概念が広がっていた証拠ではないか」と指摘。女子生徒も西南戦争における両軍の武器を比較し、「明治政府にはお金もあり、近代的な武器をそろえることができたのではないかとそれぞれの考えを電子黒板を使って発表した。



小グループに分かれての話し合い活動

◆効率化にとどまらないICT活用を◆

「ICTで視覚的に示すことで課題が素早く共有でき、生徒の理解も深まります。時間が短縮できるので、その分話し合いの時間を長くすることも可能です」

ICTの利点について、山藤教諭はこう述べる。幸崎中で使われているICT機器は、電子黒板、プロジェクター、実物投影機など。今年度からパナソニック教育財団の特別研究指定を受け、電子黒板を増設。1学級に1台の割合で配備されている。現在は「教師がわかりやすく説明するための活用が多いが、生徒に発表させる方法をもっと工夫したり、ICTを使って思考を深めたりする活用をしていきたい」（山藤教諭）とのこと。効率化にとどまらないICT活用法が今後の実践のカギといえそうだ。

（編集部）

家庭学習で基礎・基本育む

中学校

ICT機器を活用して「思考力・表現力」を高める授業の創造」に取り組み広島県三原市立幸崎中学校（屋敷光校長、生徒88人）。同校では生徒の思考力を高める「ノートづくり」を、表現力の向上では「話し合い活動」を大切にしている。また、学力を支える基礎・基本の定着では家庭学習を重視。その「手引き」を作成するなどしており、学校のアンケートでは「1時間30分以上している」と答える生徒も増えている。

広島・三原 市立幸崎中

小学校と
交流授業

児童に英語教える活動も

題」と話す。

毎日1時間を目標に

同校では家庭学習を充実させるため、「毎日1時間以上」を目標に取り組んでいる。思考力の充実を図られたものの、「基礎・基本」の学習内容が定着していないなどの課題が見られたためだ。宿題は国語の「漢字帳」やその日学習したことをまとめる英語の「宿題（毎日）ノート」など生徒の負担を考慮し、こ

同校の英語科では毎回授業で天気や曜日、「Do you like～」など簡単な日常会話をペア学習で行っている。既習内容の定着が目的で、グループ活動で互いに教え合いながら全員が文法を理解できる集団を目指す形だ。その際、教師側で「教えることが得意な生徒」「支援が必要な生徒」などを基準に座席を決定。それがクラス全体のバランスを踏まえた学習集団づくりの工夫となっている。

また、同校の英語科では2種類のノートを作成する。1つは「授業ノート」で教師が板書したものをそのまま書き写すと生活への円滑な移行につ

ペアで買い物の会話

同校では小学校が隣接している利点を生かし、中学校英語と小学校の外国語活動で「小中連携」を進めている。交流授業は年3回。「中1ギャップ」の解消を図り、中学校生活への円滑な移行につ

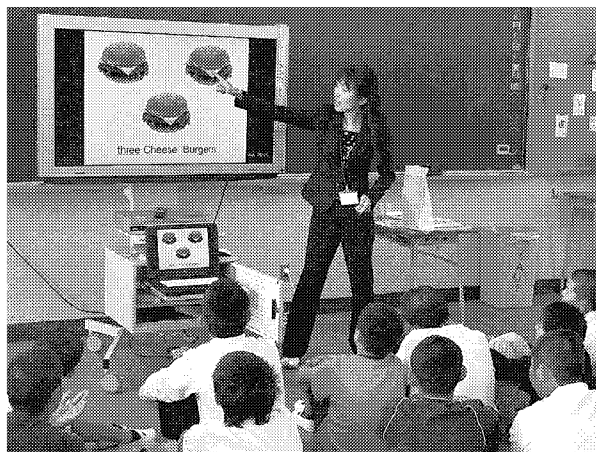
会話をやりとりを中学生が小学生と一緒に練習した。「中学生には正確な文法が求められる」と英語科の等岡美穂子教師。中学生が小学生を指導する活動を取り入れたことで、学習内容をきちんと理解して「どう教えれば分かりやすいか」「どう表現すれば確実に小学生に伝わるか」を考えさせた。

幸崎中 ☎0848・69・0004

れまで学習したものの復習を中心とした。また、B4判1枚の「家庭学習の手引き」も作成。家庭学習の開始時間や学習場所を記入することができ、数学では「予習よりも復習に時間をかける」など、各教科における家庭学習のポイントなども掲載されている。

この授業では主にペアその発音を繰り返し練習して単数と複数の概念も学習した。

「生徒の授業に対する意欲や思考力も高まり、教えることで分かりやすく相手に伝える表現力も身に付けることができたと」等岡教師。今後は「小学校外国語活動の単元を見直し、中学校の学習内容と連携させたカリキュラム開発が課



電子黒板にハンバーガーを映し、数表現と複数形について説明する笠岡教諭



"Here you are."—。英語で買い物のやりとりをする子どもたち